

あなたのふるさとを元気にしたい



(財)日本船舶振興会の新しい呼び名です。

「スロースロークイック。手をつないで、はいそこでターン……」。声の主は、四本信子先生。「障害のある方々と、もっと自然なかたちでふれあえる場が持てたらと思って始めたんです」とおっしゃいます。'85年まで競技ダンサーとして活躍ののち、新たに情熱を傾けられるものとオランダへ渡り、ウィールチェア(車いす)ダンスをマスター。現在、日本・車いすダンス研究会の指導役を務められています。さて、このウィールチェアダンス。写真でもおわかりのように健常者(スタンディング パートナー)と車いすの障害者(ウィールチェア ドライバー)がコンビスタイルで踊るのですが、ステップも通常の社交ダンスと同様に本格的なもの。当研究会では、そのスタンディングパートナーをボランティアが引き受け



ています。元ダンス教師の方は、「自分の技術を役立てたいと思って参加したんですが、皆さんのひたむきに取り組む姿勢に教わることの方が多いんです。キラキラと目を輝かせて踊っているのを見ると、私も頑張らなくちゃと思うんですよ」と語ります。一方、ある車いすの方は、「夫婦で参加してます。ふたりとも障害者なんですけど、これまで健常者と接する機会、新しい出逢いがあまりなかったの、この会は毎週ものすごく楽しみにしています。こういった場に参加できるだけでも、私たちは恵まれていると思います」と答えてくださいました。優雅な音楽にのってダンスを続ける、スタンディングパートナーとウィールチェアドライバー。いきいきとした楽しそうな笑顔は、「健常者」と「障害者」の垣根を越えて、人と人がふれあうことの温かさを教えてくれているようでした。

●日本・車いすダンス研究会

障害者にも社交ダンスの楽しさを知ってもらおうと、'93年の秋、四本信子氏が中心となって組織化。指導はもとより、すべてボランティアによって成り立っている。参加者は、毎週行われる練習に取り組む一方で、その楽しさをさらに多くの人たちに伝えたいと全国各地で講習会も実施。裾野は、徐々に広がりがつつある。 日本財団では、こうした活動を応援しています。

車いすダンスに関するお問い合わせは、ウィールチェア ヨツモトダンススクール自由が丘 TEL.03-3724-9297まで。



手のひらから、
幸せが伝わって
きました。